

不完全な中の Purity



renino

大切な水色の箱
生きていくのに必要な
とてもとても大切な箱
少し切なくて少し胸が痛くなる

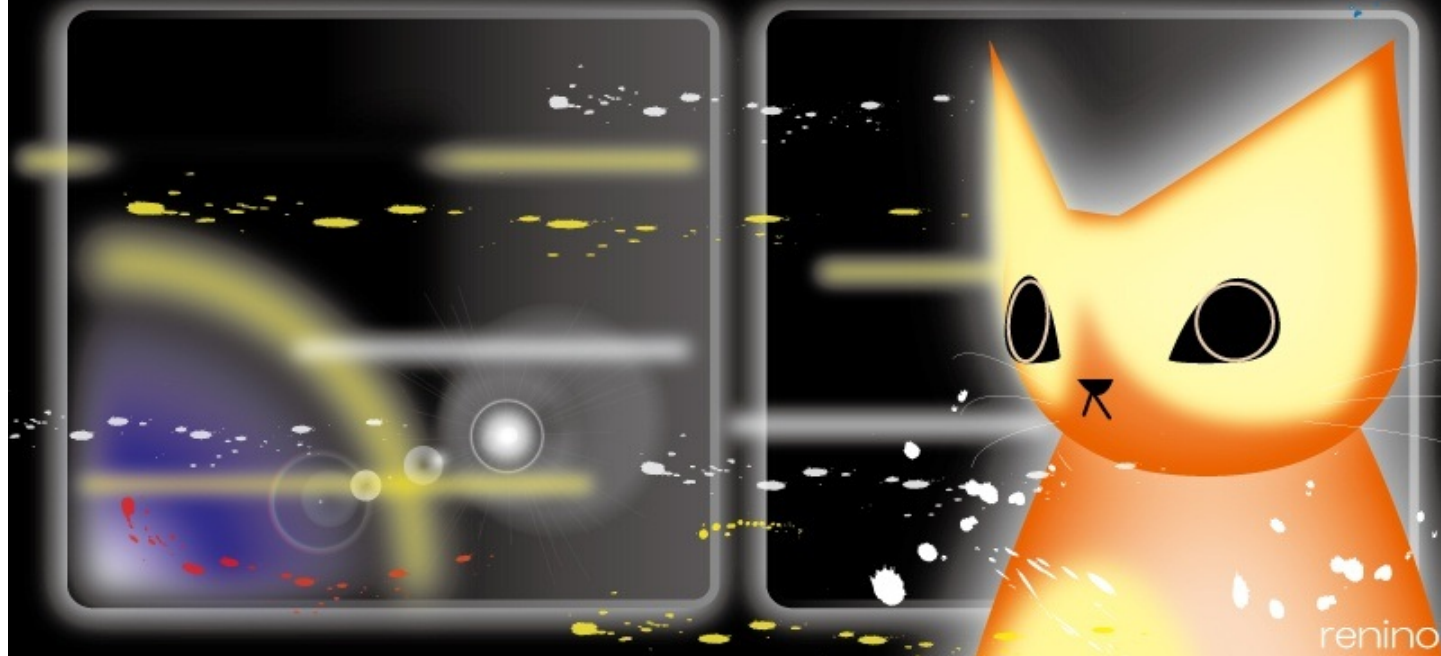


でもたくさんの優しさがつまった箱
時々開けてみたくなる
何だかちょっとメランコリーな時
何だかちょっとノスタルジックな時



renino

昔、子供と大人の間で自分という存在に悩んでいた頃
学校帰りのバスの中から、いつも闇に溶け込んでゆく
車のライトを見つめていた
未来が見えなくて、現実もぼやけてて
光を探してもすぐに闇に飲み込まれてしまう
車のライトはまるで自分の無力さを現しているようだった



生きるのが辛くなったり
自分が今この世界で何を刻み付けてるのか
分からなくなったり
全ての意味が分からなくなったり



学校の廊下の窓から、いつも空に広がってゆく夕日を見つめていた
夕日はいつもにじんで現実がはっきり見えない
やがて真っ暗な夜がきて星がまたたいているのに
僕の心はなぜかいつも風が吹いていた




夢。夢ってなんだろうって思ったり

例えそれがあつたとしても叶えるってどういふことだろうと思つたり



そんな複雑な思い出がつまった水色ボックス
開かなければいいのに、時々開いてしまうのは
そこに入っているのがそんな苦しい思い出だけじゃないから





君への愛
昔の苦悩と一緒に、
そんな僕を温めてくれたもう一つの思い出
君を愛していた記憶
生きることに悩んで立ち止まりながら
それでも誰かを愛していた記憶
その記憶と一緒にいるから
僕は時々水色ボックスを開けたくなるんだ

renino


ぼんやりした現実の中で
たった一つはっきりとしていた真実
君を愛していた感情



君を愛したあの季節はとても切なくて
君の全てを守りたくて僕は生きてた
君を愛したあの時代で僕は少し大人になった
君を愛し続けたこと後悔してない



renino



君を愛していたあの頃
僕はとても素直じゃなくて
いろんな人に思いを
言葉に出来なくて
そう、君にさえ
だから誰にも伝わらなくて
だけど僕は満足していた
だってとても優しい気持ちに
なれたのだから



君と歩いたあの時代は 僕はまだ少し幼くて
いろんなものに心揺れ 自分が分からなくて
君と歩いたあの時代は 僕はまだ少し弱くて
まるで あの秋の空のように 水色だった

renino

水色ボックスを開けると

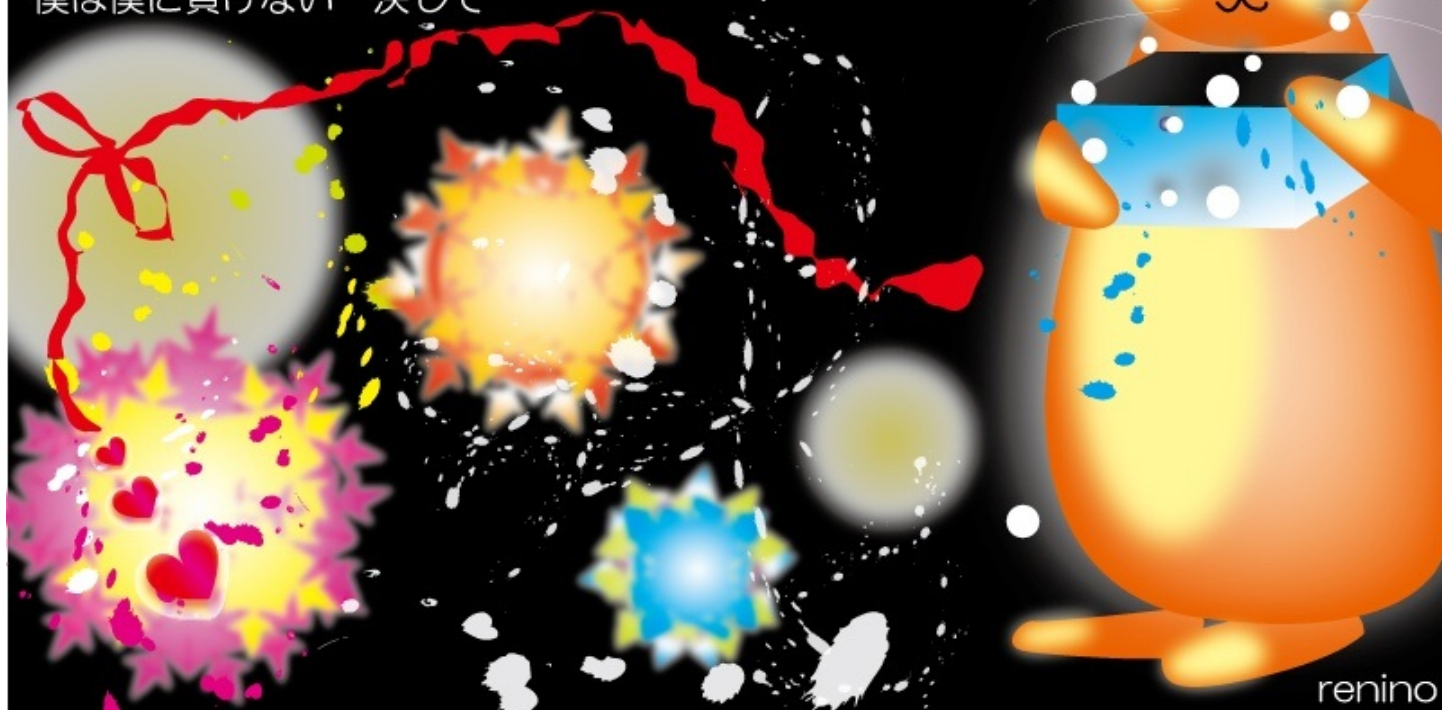
現実から逃げてちゃんと道を歩けてなかった自分がそこにある

いろんなものが無駄に思えて諦めていた自分がそこにある

それでも君を純粹に愛していた自分もそこにある

そして君を愛する事で自分を勇気づけていた自分もそこにある

僕は僕に負けない 決して



renino

昔のとても不安定な自分と一緒に
純粋な自分と
前に進もうと自分を鼓舞する自分が
水色ボックスには詰まってるから
時々開けたくなるんだ



renino

何だかちょっとメランコリーな時
何だかちょっとノスタルジックな時
水色の記憶たちが
僕に生きる勇気をくれるんだ

